



「集中豪雨」について



今年も梅雨の時季が到来しました。わが国では、6月下旬から7月中旬にかけての梅雨前線の活動や台風の接近・上陸などにより、毎年各地で「集中豪雨」が発生し、被害を出しています。

「集中豪雨」とは、「ゲリラ豪雨」と呼ばれるように、突発的・局地的に短時間に多量に降る雨を指します。どのくらいの範囲で、何時間に何ミリメートル以上降れば該当するといった定義はありませんが、おおむね直径10km～数十kmの範囲に時間雨量50mmを超える場合と考えていいでしょう。また、この雨はその名のとおりゲリラ的に発生しますので、天気図だけではその発生を予測することが非常に困難です。

近年話題の都市部に起こる「ヒートアイランド現象」も、集中豪雨を降らせる雲の発生原因と言われていますが、条件がそろえば全国どこでも（もちろん松前町でも）発生しますので、注意が必要です。

一般的に市街地の排水能力は時間雨量50mm程度を想定しています。よって、「集中豪雨」が発生すると、排水能力を超え、排水路などがあふれる「内水氾濫」が起こり、浸水被害が発生する可能性が高くなるわけです。どの程度の雨が概ね何ミリメートルの雨量か、雨の強さと降り方を表に示します。

梅雨期の雨は貴重な水資源となり、稲の成長に欠かせません。しかし、降りすぎによる「集中豪雨」には注意が必要です。災害の兆候を見逃すことなく、早めの対応が必要です。

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く降り続くときは注意が必要。
20～30	強い雨	どしゃ降り	側溝や小河川があふれる。小規模なけが崩れが始まる。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したような雨	下水管から雨があふれる。がけ崩れなどが起こりやすくなる。
50～80	非常に激しい雨	滝のような雨	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要となる。

● 女性消防団の「ちょっといい話」 ● <第12回>

お、またまた女性消防団員がなにやらお話をしていますね。

A：最近日本各地で地震が多いよねえ。

B：ほんとよ。いよいよ南海地震が迫ってきよんかなあ。おこわ～

A：ほやけど地震があったときに水とか食料とか備蓄せないかんていうけど、松前町はどうなんやろね？しっとる？

B：ほんとよ、どうなっとなやろねえ。聞きにいこや！

ということで、松前町役場で聞いてみました。

B：こんにちは。いつかやってくる大地震に備えて、松前町ではどんなものをどれくらい備蓄しているのですか？

職員：はい、松前町では非常用といたしまして飲料水、缶詰、レトルト食品、毛布、ティッシュなど、

約500人分を備蓄しております。

A：へえ、いろいろとあるんですねえ。けど、松前町の人口って3万人以上なんじゃ…。

職員：はい。松前町民全員分の非常用の物資を備蓄しておくというのは予算的にも困難ですし、物品の更新などを考えると現実的ではありません。さらに大規模災害が発生した場合、公的な救援活動が開始されるまでには時間がかかると思われます。そこで町民の皆さんにはそれぞれのご家庭での備えや、地域ぐるみでの助け合いをお願いしたいと思ひまして、現在、各地域の自主防災組織の結成を促しているところなんです。

B：「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神が大事なんやね。

A：ほうよ、私もさっそく災害用の備蓄を始めよ。それから近所さんとの普段からの付き合いも大事やね。油断せずに、いつ地震が起こってもええようにしとかないかんねえ。